

## 酒田市総合計画審議会 第2回ひとづくり・まちづくり部会 議事要旨

### 1. 日時

平成29年2月22日（水）13:30～15:10

### 2. 場所

酒田市役所第二委員会室

### 3. 出席者

【酒田市総合計画審議会委員 ひとづくり・まちづくり部会委員】

| 所 属                 | 氏 名   | 備 考  |
|---------------------|-------|------|
| 酒田市自治会連合会連絡協議会会長    | 伊藤 則義 | 部会長  |
| 酒田市コミュニティ振興会連絡協議会会長 | 工藤 吉郎 | 副部会長 |
| 酒田市芸術文化協会会長         | 工藤 幸治 |      |
| 酒田飽海PTA連合会母親委員会会長   | 小山 敏子 |      |
| 東北公益文科大学学長          | 吉村 昇  |      |

### 【事務局】

総務部長、市長公室調整監、地方創生調整監兼政策推進課長、市民部長、教育部長、  
政策推進課、総合計画策定プロジェクトチーム

### 4. 議事内容

#### ○事務局より会議の成立について報告

- ・本日の出席委員は5人であり委員定数8人の半数以上となっていることから、酒田市総合計画審議会条例施行規則第4条第2項の規定により、本日の会議は有効である。

#### (1) 総合計画審議会委員インタビューの概要（主な意見）について

- ・資料2に沿って事務局より説明。

#### ○総合計画審議会委員インタビューの概要についての質疑・意見等

(委員)【自治会・コミュニティ振興会等】について、現状のコミュニティ振興会連絡協議会では会議等のみを実施し、事業は行っていないという記載があるが、コミュニティ振興会連絡協議会では、先進の産業、文化、歴史等について会員研修等を行っているもので、必ずしも事

業を行っていないわけではない。

(委員)【芸術・文化】について、黒森歌舞伎等の文化の継承が重要であるという記載があるが、東北公益文科大学では、山形市のIT企業、会津若松市の民間企業と組んで、モーションキャプチャーという新しい情報技術を使って、黒森歌舞伎をアニメーション化し、若い人への継承・再興につなげていくための取組みを進めているところ。酒田市も含めて埋もれてしまった庄内地域の伝統芸能、芸術・文化を発掘してIC技術によるアニメーション化を行い、若い人への継承・再興に活用していく。4月からメディア情報コースを設置するので、大学の特色の1つとして取り組んでいく。

(委員) 非常に良いことだと思う。

(委員)「黒森歌舞伎等」という記載だが、「等」で略さずに、松山能や新山延年といった県指定無形民俗文化財も含めて大事なものを記載すればよいと思う。

⇒ 資料2は各委員の皆様へのインタビューでいただいた意見を抜粋したもので、基本構想、基本計画の策定に向けた今後の議論の材料として考えていただきたい。

## (2) 新酒田市総合計画の策定について

・資料1に沿って事務局より説明。

### ○新酒田市総合計画の策定についての質疑・意見等

(委員) これまでの資料づくり、聞き取りに敬意を表する。隅々まで気を配りながら策定に向けてがんばってもらっていることに対してお礼を申し上げたい。担当者が来てヒアリングを行ったり等、情熱が伝わってきて、委員も一生懸命にならなければならないと責任を感じたところで、今後ともよろしく願います。「酒田愛」という文言を打ち出す意図をお聞きしたい。

⇒ 平成27年10月に酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定した中で、高校生の地元就職や酒田へのUIJターンを促進するためには、郷土愛をしっかりと醸成していく必要があるということを位置づけた経過を踏まえ、第1章のひとづくりの中にも「酒田愛」を育むことを記載した。

(委員) 酒田を愛する気持ちを小さいときから育てていくことが重要。「ふるさととは遠くにありて思うもの」ではなく、「ふるさととは近くにありて愛すもの」という気持ちを市民全員に持ってもらうことにより、観光のおもてなし等、前向きに生きるエネルギーになるという観点から、酒田を愛する気持ちをクローズアップしたことは大事にしていかなければならない。

(委員) 同感である。私も職業柄、ほとんど地元を離れていたが、地元を離れていると酒田の良さが分かる。海も山も近く、人情もあるので、そういうことを知ることが大事だと思う。

(委員) 基本にあるのは地域を愛すること。子供たちが小さいときから、いかに地域に親しんでもらうかが必要だと思う。

(委員) 現状や過去を把握したうえで、総合計画を作らなければならない。雇用の問題が一番大きな問題だが、酒田市出身の高校生で、地元就職する人の割合はどの位か。

⇒ 高卒者の地元定着率は約 68%。県内への就職率だが、ほぼ庄内への就職と捉えている。村山地区のように 90%とは言わないが、地元定着率を高めていきたいと考えている。

(委員) 地元定着率を上げたいという目標はあるのか。

⇒ 70 数%までは上げたい。また、県外に出てしまった大学生を呼び戻す施策を工夫して実施している。

(委員) 秋田県でも高卒者の 68%位が県内就職だが、3 年後の離職率が 44%。大卒者では 3 年後の離職率が 33%。定着はしたが 3 年後にいなくなる率が非常に高い。どこに行ったかを聞いても誰も調べていない。3 年後も定住するかどうか重要で、そこをしっかりとめる施策をつくること。一番大きな問題は圧倒的に賃金が違うことで、そこをどのように工夫していくか、行政として色々なことを考えないといけない。酒田市として違った切り口で魅力的な定住施策を打ち上げた方がよいのではないか。

⇒ 中小企業に就職した同年代が少ないため、同年代での情報交換等を行うネットワークづくりや、能力アップを図るための支援を施策として行っている。給与の問題はあるが、モチベーションを高めることができる仕組みを考えて実施しているところ。

(委員) 離職の問題について統計を取ったほうがいい。昨年、東北公益文科大学で 3 年後の離職率を調べたが、小企業ほど離職率が高い傾向があり、大企業ほど定着している。企業への講習会の開催等をして改善していくことが行政としては大事だと思う。

⇒ 酒田の大企業でも、給与はいいはずだが、離職率が高くなっているようだ。会社には入ったが能力が発揮できないようなケース、より高みを目指すケースもあると聞いている。会社では職員に対するスキルアップを積極的に促す取組みをしているようだ。次回、そういったデータ等も準備したい。

(委員) 東北公益文科大学と連携してまちづくりを行うことは非常にありがたいが、酒田市にとってメリットがあれば東北公益文科大学プラス東京の大学等と連携してもかまわないのではないか。部活の合宿を誘致する等、色々な取組みができる。東北公益文科大学を軸にすることはよいが、プラスアルファで他の大規模な大学にも視点を広げた取組みを検討してほしい。

(委員) 未来会議は土日に開催されるが、子どもは部活で一切関わることができないので、学校全体で行ってほしいという話をした。中学校の子どもたちが、酒田はこういうものだという議論をしたことが将来形になれば、酒田に根付く気持ちも芽生える。学校の道德等の授業の一環として取り組んでもよいのではないか。第 4 章の子育てのライフステージに応じた支援とは、具体的には何か。余目ではかばんの支給、他自治体では 3 人目が生まれた際の金銭の給付等があっという話でいいという話が聞こえてくるが、酒田市ではどのような独自の施策を掲げていくのか。

⇒ まずは目指すべき方向性を決めていただいたうえで、個別具体の事務事業についてはその後に検討していく。

(委員) 計画は色々あるが、自分が子育てをしてきて結局何があったかわからない。子育てはしにくいのではないかと思う。

⇒ 国、県の制度以外の市独自の支援をイメージされていると思うので、具体的には予算とのバランスも考えながら、これから組み立てたい。

(委員) 東根市の子育て支援環境の良さがしばしば言われる。若い人達が行きたがるのは東根市だそうだ。子育て支援の条件が非常に良く、土地・アパートが安く、住めるような体制で若い人を迎えていると聞いている。具体的なものがパッと出てくるような施策が人口増につながっているのではないかと思う。

⇒ 「分かりやすさ」ということだと思う。

(委員) 計画にのるということは、現在よりよくするということだと思う。

(委員) 酒田市として前期5年で何に力を入れるのか、何を魅力にして売り出すのか、◎、○等で切り分けし、比重をつけて財政を集中的に投資するようにしていかないと市民に分かってもらえない。日本全体の中でも酒田市がこれだけ素晴らしいということが2つか3つ位あれば、ものすごく訴えることができる。

⇒ 重点的に取り組むべき項目についての表し方については工夫をしたい。

(委員) 具現化に向かって、具体的なものを表示することが必要。具体性がないとファジーなままになって分からない。

(委員) 同感で、色々なことを掲げるよりは、的を絞って集中投資することで裾野が広がりつながってくる。行政としてはそういうわけにもいかないのだから、掲げることは結構だが、重点項目を掲げてそれに傾注することが必要。一番の問題は人口減少、少子高齢化で、仕事の問題、子育ての問題等、色々な問題につながっている。それに向けた施策を行うなど、誰もが分かるものを作っていくべき。

⇒ どういうふうな町でありたい、こういう暮らしをしたいという具体的な目的に沿うような章立てにしたいと思いつつも、結果的にほとんどの分野が含まれてしまい、焦点がぼやけてしまうところはあるかと思う。人口減少対策が喫緊の課題であるので、そういうところを焦点にしながらか、今後、強調の手法については工夫したい。

(委員) ふるさと納税が10億円を超えそうだという話があったが、純粋に使える予算は何割位か。

⇒ 1月末で約8億2千万円で、54%は返礼品に充てている。残りの部分から手数料、人件費を差し引くと実際に残るのは2割～3割。

(委員) 何に使う予定か。先日の新聞で各都市のふるさと納税の使途が掲載されていたが、ふるさと納税による寄附を酒田市の特色ある事業に上手く重点的に配分して、酒田市らしさを打ち出していければよい。

⇒ 酒田市は全般に使うとしている。

(委員) 行政はどうしてもそうなるが、全般ではだめだ。

⇒ 当初は寄附だけで事業ができる規模ではなかった。今年度は寄附額が4～5倍に増加したので、平成29年度からはご指摘のような形で、こういう事業に活用させていただいたという説明を行っていくことも検討したい。また、平成29年度はイカ釣り船団が酒田港に寄港してもらうための支援策に充当するため、ガバメントクラウド

ファンディングによる寄附を集めていく。

(委員) 重点的に使った方が市民に見える。市民に見えるような形を示せば良いと思う。

⇒ 恒久的な財源ではないため、平成 29 年度は利益の半分を基金に積み立て、将来的な投資・企画に備えていく組み立てをしている。

(委員) 市民に分かってもらえる施策に最初にどんと使った方が市民が感激すると思う。

⇒ イカ釣り船団の水揚量はある程度の実績があり、よりアピールをして寄港してもらうことにより、お金も酒田市に落ちるので、まずそこに平成 29 年度は取り組んでいく。将来的に特徴的な施策に活用していきたい。

(委員) 市長には、市民が心にぬくもりを持てる酒田市をつくるのが市長としての役割だという話をした。市民一人ひとりが住んで良かったと思えるような行政を行ってほしい。人口 10 万人という規模はやりやすい町だと思ふ。何でも分配すればいいというものではないと思っている。

(委員) 介護保険の運営委員会でも話をしたが、地域で要支援 1・2 の人を助け合う制度を進めようとしているが、各コミセンに任されても、リーダーになる人材がいないと進まない。自治会連合会でも各コミセンに 1 人ずつ配置して進めたらどうかと提案したが、地域包括支援センターに 1 人増員するということがあった。どう進めればよいのか、各コミセンに任せるといわれても難しいので、モデル的なものを作ってほしいと言っている。もう少し具体例を示してもらわないと進まないのではないか。介護保険料の増加は目に見えているので、どれ位地元で協力をもらえるかが重要になってくる。

(委員) 農村地帯では集落営農組織の法人化が進んでいるが、実際には担い手はほとんどいない。農村振興等書いているが、実際には農業で生活できるというのはなかなか難しい。非常に収益が少なく、地域に魅力がない限りはどんどん地域から離れていくことは目に見えている。70 代以上の方が農業をやっている状況だが、福祉についても同じで、老老介護のような状況。5 年 10 年たてば更にその状況が進む。1 コミセンでは無理だと思いながらも、何か手を打たなければならないという焦りを感じており、思い切った施策を打たないといけないのではないかと思う。儲かる農業と掲げるのは良いが、実情は厳しいということ認識しながら取り組む必要がある。

(委員) 「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」の考え方は。市街地だけを指しているのか、農村地域を含めて、核となるところを設けて取り組もうとしているのか、両方の視点があると思うがどうか。

⇒ どちらかというとし街地のコンパクト・プラス・ネットワークという記載をしているが、旧 3 町地区についても各タウンセンター構想の中で核となる中心を作っている。そこを中心とした地域づくりがしっかりとやれる形になれば、コンパクトに地域づくりを行えるような体制が整うのではないかということで、来年度は、松山の地見興屋地区や平田の田沢地区、八幡の大沢地区等で、モデル的に地域で儲けるような仕組みをつくれないうことで取り組んでいく。

(委員) 今の話だと旧公民館地区は該当しない。コンパクトシティとは、子供から大人まで地

域で生活ができるようなことをいうのではないかと思う。儲かる仕組みがあってもいいと思うが、一つの構想をもって取り組まないといけないと思う。少なくとも生活し続けることができるまちづくりということが大切ではないか。

⇒ 南部地区ではそばに特化した事業を組み立てたいという思いがあったり、田沢地区では農家レストランを最終的に目指す取り組みをしていきたいという思いは伺っている。4年後位を目標に立ち上げるため、組織化を図っていくこととしている。

(委員) 地域住民の意向を踏まえたうえで、コミ振単位で魅力、賑わいをつくることができればよいと思う。

(委員) 山形新幹線の庄内延伸のトーンが下がっているように思う。県庁所在地に行くことが一番不便なことが問題であり、鉄道のつながりがなくなることが気になっている。奥羽・羽越新幹線が主流のように映るが、酒田市では庄内延伸はもういいと考えているのか。

⇒ 地元紙でもフル規格新幹線についての連載記事をやっているのですが、フル規格に知事を入れたいという見方がある一方で、もしフル規格の新幹線ができれば停まらなくなる駅が出てくることや在来平行線の地元負担という問題もある。酒田市の姿勢は、当初からミニ新幹線を庄内に延伸したいという基本的な考え方は変えていない。先日も講演会を開催し市民の方400名余りの参加をいただいたが、色々な手法があることを勉強している。県庁所在地との鉄道網整備が非常に大事だと思っている。来年度、県では県内の公共交通のあり方を見直すための調査費を盛り込んでいる。詳細は未定だが、域内交通を再構築するということは、陸羽西線を今後どうするのかという県の考え方も入ってくるのではないかと思うので、酒田市からも意見を言っていきたい。

(委員) こちらから積極的にアプローチして訴えていくことが大事だと思う。

(委員) 先日の講演会ではかなり具体的な案が示されていた。

⇒ 講師の阿部先生が言うには、中速鉄道をつくれればフル規格と同等で、20億円/kmで整備できるという話だった。

(委員) 来年度組織改選の時期になっている。新しく委員になる人もいると思うので、ぜひフォローアップをよろしく願います。

(委員) ビジョン検討委員会のメンバーはいつ頃決まるのか。

⇒ これから部会長と相談させていただく。

#### ○その他

- ・前回、委員より質問があった、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について、教育部長より説明。

#### ○連絡事項（事務局より）

- ・次回は、ビジョン検討委員会を開催し、基本構想案をまとめたうえで、5月に全体会を開催する。

以上